

看護と文献

本学図書館の現状

—看護学生への利用指導を中心に—

速見 浩子

1. 本学図書館紹介

本学図書館は、1994年4月大阪府立看護大学及び医療技術短期大学の附属図書館として羽曳野市にオープンした。前身は1978年4月にスタートした大阪府立看護短期大学附属図書館である。看護学部と、医療技術短期大学の看護1・看護2・臨床検査・栄養・歯科衛生・理学療法・作業療法の7学科から成る。

'95年8月現在のサービス対象は、学生数625名（完成年度には910名になる予定）教員数117名であり、平成6年度の総貸出冊数は15,512冊、一日の平均利用者数は208人であった。司書の定数は常勤3名、非常勤1名である。

蔵書数は現在86,000冊で、当初全面開架を想定していたが建物構造上やむを得ず、36,000冊を開架、残りを階下の書庫に配架するという形をとっている。購入雑誌数は和雑誌340タイトル、洋雑誌206タイトルである。導入システムは、NECのLICSU-EXで、端末は、OPAC専用1台、事務用とOPAC兼用1台、事務用3台、それに学術情報センターとの接続端末が1台である。OPAC専用端末については、台数が少ないので今後予算要求をして増やしていく予定である。図書データに関しては、短大時代に使っていたLIBROSのデータのコンバート分と外注した分とにわかれデータのばらつきはあるが、一応全データ入力済みとい

はやみ ひろこ：大阪府立看護大学
附属図書館

うことで出発した。昨年度から新規入力分は学情センターからLICSUへの取り込みを行っている。雑誌に関してもOPACで所蔵検索ができる。相互利用に関しては、学情センターのILLシステムで依頼だけ行っており、受付はFAX・郵送に限っている状況である（昨年度依頼348件、受付129件）。まだLANは構築されていない。

このほかスタンドアロン型のCD-ROM検索用機器が4台あり、導入しているのは、利用頻度からいくと、医中誌・MEDLINE・CINAHL・NDL（雑誌記事索引カレント版）の順である。昨年度の利用総件数は約200件（レファレンスのための検索は除く）であった。

2. 学生の利用指導について

次に図書館利用促進のための活動について、この特集のテーマにそって看護学生に焦点をあてて述べてみたい。

短大時代には入学者全員を4グループくらいにわけて、いわゆる図書館ツアーと称するオリエンテーションを、入学時オリティの最後におこなっていた。図書館がどこにあり、どんな資料があるか、また貸出、コピーなど含めてどんなサービスが受けられるか知ってもらうという意味で利用につながる第一歩である。

学生数の増えた今はこの形はとれず、希望者のみということになったが、昨年度は学部の入学生については、担当教員の申し入れで休講時間の枠の中に組み込んでもらい15人く

らのグループで4回にわけて、施設概要、看護学分類、OPACの使い方、及び簡単な二次資料の使い方の説明を行った。今年度は、掲示板でよびかけて希望者を募り行ったが、受けたのは新入生の1/10にも満たなかった。このオリティを受けた人数の差が利用にどうはねかえるか興味のあるところである。

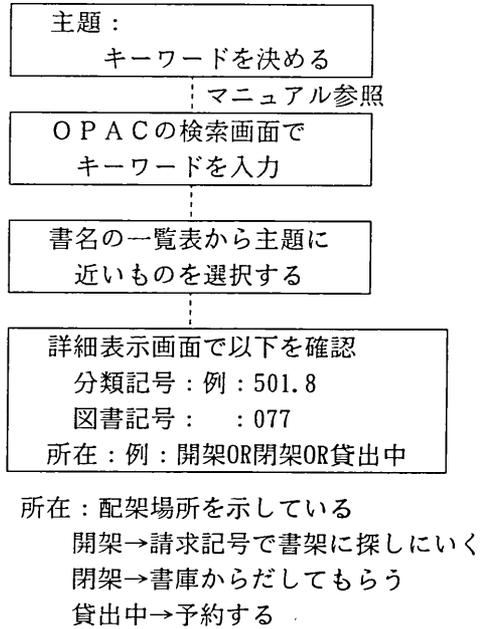
次に実習期間中の学生を対象に行っている第2次オリエンテーション=利用指導について述べていきたい。時期としては実習に入った2, 3週間目くらいの帰学日(本学の場合は水曜日)2日くらいを設定し、これも希望者に受けてもらっている。今年度は看1-16名、看2-24名の希望者があり、結果的に約1/3が受けたことになる。1グループ人数5-6人平均だった。

具体的内容としては、まず調べたいテーマを分析してキーワードを決めることから始める。わからない言葉や同義語などがあれば、参考図書架にある医学辞典や看護学辞典などを使ってあらかじめ調べておく。決定したキーワードで検索を進めていくには、どの検索手段を選択すればいいのか、具体例を挙げて説明を行っている。

図書を探す場合はOPACを使う。検索に使える語は、件名はとっていないので、書名・副書名・注記にでてくる単語のみである。右上のチャートに従って説明を加える。

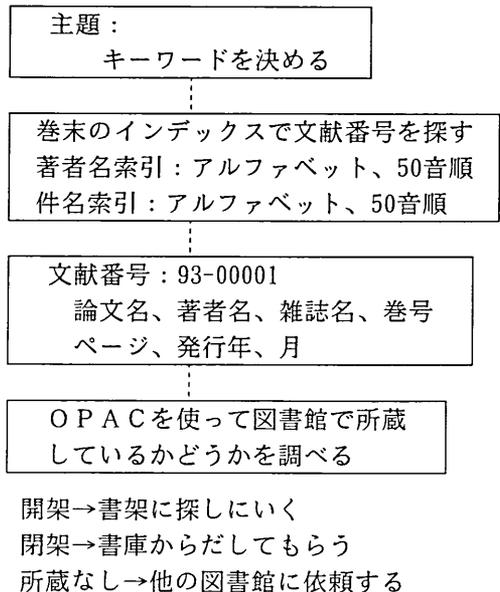
次に雑誌論文の探し方(右下チャート参照)の一方方法としてまず冊子体の二次資料をとりあげ、その代表として利用頻度の高い『最新看護索引』を取り上げている。演習形式とまではいかないまでも、具体的に検索をして雑誌架にある原著論文を手にするまでを体験してもらう。2つの概念の掛け合わせの方法も、簡単なテクニックとして付け加えている。引用文献・参考文献に必要な項目についても簡単にふれる。

OPACによる本の探し方



雑誌論文の探し方

A. 索引誌を使う場合 例: 最新看護索引 (1988-1993)



最後に利用頻度はまだ少ないがCD-ROMの代表として医中誌をとりあげ、どんな検索に適するかも含めてそのプロセスを一通り説明する。今年度9月末までの学生の利用は22件であった。

実施時期、時間などについては、昨年度はレポートの関係もあって、学部1年生には雑誌論文についても説明を行ったのであるが、日常的に使うのはOPACが主であり、現在2年生になった学生に聞くと、やり方を忘れてしまったようである。やはり必要を感じる時期に行う方が効果的だといえる。また調べたいテーマを事前に提示してもらい、こちらで下調べをした上で、効率的に説明を展開するというやり方が、更に有効だといえる。時間については、1次オリティが約15分、2次オリティは約30分で実施しているが、今後の課題としては、特に2次オリティに関しては、実習担当教員と話し合いながら、カリキュラムの中に組み込み、少なくとも90分くらいはとり、説明の前に看護図書館協議会作成のビデオをみてもらうなど検討を加えていきたいと思っている。

3. 卒業生の利用を通してみた病院図書室への提案

現在、本学図書館は一般公開しておらず、卒業生などに利用が限られている。夜勤明けとか、準夜前とか忙しいスケジュールをぬって、卒業生がやってくる。本学ではFAX、及び郵送による文献複写申し込みも行っているわけであるが、多くの場合検索ツールがないかあるいはあるところを知らないのかもしれないが、直接閲覧に訪れるケースが多い。利用者に負担をかけることになるが、本学では学生・教職員以外には使った資料を記入してもらっており、その項目に『最新看護索引』があげられることが多い。最近医中誌CD-ROMにおける看護関係論文の数が、急増しているという結果もでている注(1)が、しかし検索結果をみると会議録が多くを占めており、『最新看護索引』のほうが、圧倒的な安価さ、

キーワードの豊富さ、看護関連収載誌の網羅性からいって優れていると思う。今後タイムラグの短縮とコンピュータ検索にどうのせられるかが課題であると思うが、現時点では臨床スタッフにとっても最善のツールではないかと思う。

この原稿を書くにあたって、少しでも病院図書室の実態を知ろうと思い、近畿病院図書室協議会の方に送っていただいた資料に目を通してみたり、近くの病院図書室を見学したりしてみた。大部分の図書室が閲覧スペースや予算、司書の配置、人数、労働条件も恵まれているとはいええない状況だということは一目瞭然だが、この『最新看護索引』を所蔵する図書室が全体の20%にも満たないことを知って変に納得できた。

日本看護協会の調査によると、看護職員1人当たり図書予算は、1987年には1757円注(2)、1991年には1758円注(3)とこの4年でわずか1円しか増えていないと報告されている。これでは近年急増している看護系資料の整備にはとても追いつけるはずはない。予算面でそういう厳しい状況であればなおさらわずかな予算で文献に到達できる基本的ツールだけは備えて欲しいと思う。それほど最新のものを必要としないのであれば、雑誌そのものではなくても、『最新看護索引』を使って検索を行い、他館へ文献複写を依頼することができる。そこでもう一つのツールとして、所蔵検索のための看護図書館協議会作成の看護雑誌総合目録1995注(4)を挙げたい。この二つがあれば、必要論文に辿りつける可能性は高いと思われる。病院図書室がこれらを備え、その存在と使い方を広く知らしめていくことが、看護婦の図書室利用促進の第一歩になるのではないかと考える。

また、一方では看護大学などの急増にともない今後在学中に文献検索の方法を身につけた臨床スタッフの比率も急増してゆくとと思われる。本学図書館を訪れる卒業生も在学中に何等かの形で自分の求める論文に辿りつくことを経験しており、その経験が文献検索につ

いてはすぐ母校の図書館という発想になるのだと思う。しかし、出かけていくには遠く、時間や貸出不可など利用制限を設けられることが多い。そこで文献をより身近かで、より迅速に入手するためには、やはり病院図書室

における看護文献資料の整備が必要不可欠になってくる。医局の図書室に比べて不備な看護文献資料の充実を、病院内で最も多数を占める看護スタッフが声を大にして要求していくことが重要ではないかと思う。

注(1) 山添美代・山崎茂明著 看護研究のための文献検索ガイド 第2版 13p.
日本看護協会出版会 1995

注(2) 日本看護協会調査研究室 昭和62年病院看護基礎調査：日本看護協会調査研究報告, No.28 87p. 日本看護協会 1988

注(3) 日本看護協会調査研究室 1991年病院看護基礎調査：日本看護協会調査研究報告, No.39 56p. 日本看護協会 1993

注(4) 会員外頒布可 連絡先：北里大学看護学部図書館